

# 条約改正.1

名前

解答

解答

問1 19世紀後半から20世紀初めにかけて、欧米列強の国々はアジアやアフリカに進出し、植民地を広げていった。このように、自国の勢力を海外に広げ、経済的・軍事的に支配しようとする動きを何とというか。

( 帝国主義 )

問2 次の文章の括弧に入る語句を答えよ。

日本が欧米と国際的に対等な地位を得るうえでは、不平等条約の改正が最も重要な課題だった。1871年に( A )を全権大使とする( B )使節団が不平等条約の改正を試みたが、不成功に終わった。その後、不平等条約を改正するために、日本は欧米的な法制度の整備など近代化政策を推し進めた。

条約改正にいちやく応じたのは( C )で、1878年に関税自主権の回復で合意したが、イギリス等の反対で実現しなかった。外務卿の井上馨は、( D )で舞踏会を催すなどの政策をとりつつ条約改正交渉に臨んだ。このように、不平等条約の改正を目的として欧米の文化を取り入れようとした政策を( E )という。

井上馨や続いて外務大臣になった大隈重信による交渉では、領事裁判権を撤廃するかわりに、外国人を裁く裁判に外国人の裁判官を参加させるという条件が日本側から出されたが、国内からの反対で失敗した。

( A:岩倉具視 ) ( B:岩倉 ) ( C:アメリカ )  
( D:鹿鳴館 ) ( E:欧化政策 )

問3 1886年、日本の近海でイギリス船が沈没し、日本人乗客が全員死亡したにもかかわらず、イギリス人船長らは軽い罰しか受けなかった事件が発生した。この事件は、日本国内で不平等条約への不満を高めるきっかけとなった。この事件は何か。

( ノルマントン号事件 )

問4 1894年にイギリスとの間で結ばれた条約について、以下の設問に答えよ。

(1)この条約は何か。 ( 日英通商航海条約 )

(2)この条約で撤廃されたものは何か。 ( 領事裁判権 )

(3)この条約を結んだ外務大臣は誰か。 ( 陸奥宗光 )

問5 関税自主権の完全な回復は、1911年のことであった。このときの日本の外務大臣は誰か。

( 小村寿太郎 )

問6 日本は、1876年に朝鮮との間で結んだ条約によって、朝鮮に清との朝貢関係を断ち切らせたと考えていた。

日本が1876年に朝鮮との間で結んだ条約は何か。 ( 日朝修好条規 )

